

98. Dual Energy CTによる椎体骨折の描出能評価

研究の概要

単純CT撮影において骨髄浮腫を伴う新鮮椎体骨折と陳旧性椎体骨折は判断が不可能で、MRI検査を追加で行う必要があります。しかし、Dual Energy CT撮影し、仮想単色X線画像を取得することにより椎体骨折の質的診断が可能であれば、迅速な治療に貢献できると考えます。当院でDual Energy CT撮影された椎体骨折症例の描出能をMRIと比較して評価し、感度・特異度を検討します。

研究の目的と方法

当院でDual Energy CTを用いて撮影した椎体骨折の浮腫性変化について骨髄成分のみのCT値(Virtual Non Calcium :以下VNCA)を用いて評価することを目的とします。当院でDual Energy CT (管電圧100kV/Sn140kV)撮影した椎体骨折症例のCT値とVNCAを測定し、MRI画像との比較を行います。また、MRI画像とDual Energy CTによる解析画像との視覚評価を行い、感度・特異度を算出します。

本研究の参加について

これにより患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究に扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に行います。本研究にご自身のデータの使用をご希望されない方は、あるいはご質問等おありの方は、末尾の問合せ先までご連絡ください。

調査する内容

本研究は、新たな検査をすることはなく、既存カルテ情報のみを用いて実施する研究です。椎体骨折などの画像所見を呈する症例のCT検査、MRI検査の内容を調査します。個人情報の取り扱いについては、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、「個人情報の保護に関する法律」及び適応される法令、条例等を遵守します。研究対象者の情報を取り扱う場合は秘密保護に十分配慮し、特定の個人を識別することができないようにします。

調査期間

研究対象期間：令和1年6月1日～令和2年4月30日まで

研究期間：倫理委員会承認後～令和2年12月31日まで

研究成果の発表

調査した患者さんのデータは、集団として分析し、学会や論文で発表します。個人情報には調査しないので、個人が特定されることはありません。

当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター放射線科 診療放射線技師 本山雄基

問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター放射線科 診療放射線技師 本山雄基

TEL: 096-353-6501